

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 6 号 令和 5 年 8 月 2 5 日 発行

天災は忘れた頃にやってくる 学校・家庭・地域が一丸となつて

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿と笑顔が学校中にあふれています。

今年の夏休みは、猛暑、台風による暴風、大雨、洪水などによる被害が様々な地域で発生していました。また、この時期に思い出されるのは、5年前の9月には胆振東部地震です。胆振東部地震では苫小牧市も震度5強を観測し、学校は臨時休業となりました。その後のブラックアウトで電気が使えない状況が続き、保護者の皆様や地域の皆様も大変な思いをされたことを思い出されるのではないのでしょうか。科学技術の進歩で自然現象についても随分予測がなされるようになりましたが、日頃の心構えと具体的な準備が肝心です。

学校では、災害発生時の対応についてのマニュアルを作成しています。それをもとに、火災・地震の避難訓練や保護者引渡訓練をしたり、子どもたちが自分の命を守るためにすべきことを学習する防災教育を行ったりしています。今年5月に行った避難訓練の際には、子どもたちに「今日の訓練では、皆さんのそばに担任の先生がいましたが、火事や地震、津波などの災害はいつやってくるかはわかりません。先生や家の人がいないうちに、火事や地震が起きるかもしれません。そのようなときは、自分で考えて行動しなければなりません。今日の避難訓練で勉強したことを忘れず、いざというときに正しく判断できるようにしてください。」と話し、自分の命は自分で守ることの大切さを伝えています。

大きな災害が起これば、多くの方が体育館などの避難所で何日も生活する状況が続くこともあります。そのときに重要になってくるのが、日頃からの地域の結びつきです。日々の暮らしの中で、お互いの顔が見えるような絆が大切です。学校でも災害に備えた取組を行っていますが、大きな災害が発生した場合、学校だけでは対応することはできない状況も十分考えられます。そのとき、各家庭や地域との密なる連携が必要となってきます。

「天災は忘れた頃にやってくる。」

9月1日の防災の日、9月6日の胆振防災教育デーを前に、コミュニティ・スクールの取組が本格的に始まった今年度、日頃から、学校、家庭、地域が一丸となつて、様々な取組を進められるようにしていきたいと強く思います。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。